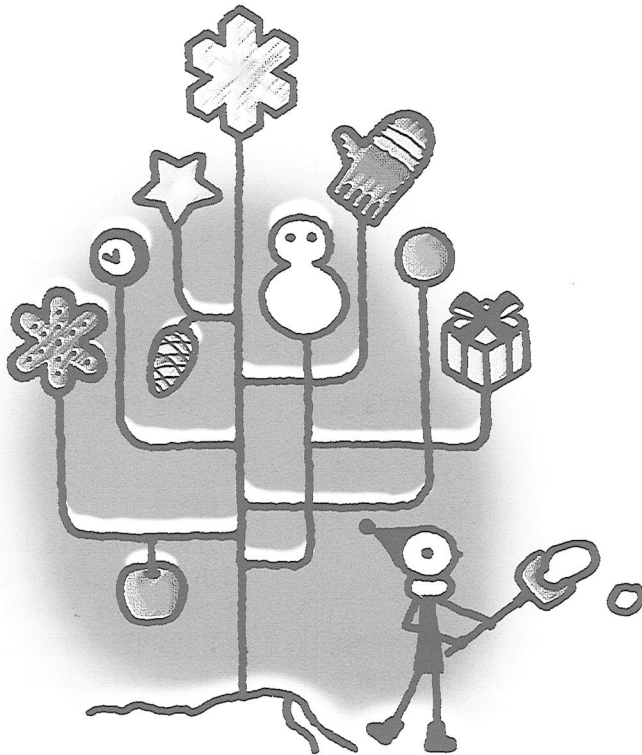


道 教 組

▶ DOKYOSO NEWS vol.508



17年続いた道独自削減終了！ 賃金交渉の成果

2015全道合研開催される

日高連絡会主催「道徳フォーラム in 日高」に20人が参加
苫小牧で学習会「みんなで考えよう 道徳教育」開催
わたしのとっておき

17年続いた道独自削減終了！賃金交渉の成果

道教組と道高教組は11月、2015年賃金確定交渉を3回行いました。3回目の18日は、午前8時30分からスタート。全道から総勢40名の教職員が道庁別館8階に駆けつけました。



独自削減終了を確認する交渉団

道教組からは、新保副委員長、楢木書記長、内藤書記次長、茶森執行委員の他、上川教組の犬上副委員長と上田会計委員、空知教組の関屋書記長と大島執行委員、全石狩札幌教組の小西・秋山両副委員長が参加しました。交渉団は柴田教育長に道理と教育条理にそった要求をつきつけ、誠意ある最終回答を求めました。

冒頭、「賃金署名」652筆（うち道教組分435筆）を追加提出しました。（合計1,929筆／道教組分合計805筆）その後、教育長から回答前に「報告」として、独自削減にかかわる高橋知事の答弁を伝え、あわせて道教委の方針も示しました。

先日、北海道議会決算特別委員会の知事総括質疑において、「一般職の独自縮減措置を終了する方向で、新たな行財政計画を取りまとめる」旨の答弁がありました。

道教委といたしましても、今後の「道財政運営の健全化のための給与措置」について、この答弁に沿った方向で対応してまいりたい。

知事の道議会での回答「独自削減終了」は、本来賃金交渉で優先的に表明すべきものであり、組合軽視です。しかし、独自削減の終了は朗報です。

教育長の最終回答は次のとおりです。（交渉後に決まった内容も追加してあります）

1. 道独自削減について

・一般職員は来年3月をもって終了する。管理職員については、大規模校（3種）校長を7%（現8%）、それ以外の校長と教頭を3%（現7.4%）に圧縮し、2016、17年度も継続する。

2. 給与改定について *解説あり

・平成27年度の給与改定は、人事委員会勧告どおり実施する。

3. 単身赴任手当について

・今年度分を1,600円引き上げ27,600円とする（4月に遡及）。来年度は30,000円とする。

4. 再任用について

・新たな制度構築はせず、今後も希望者の意向を把握しながら適切に対応していく。

5. 学校職員評価制度について

・来年4月実施に向け準備中。現行制度を「見直し」、新たな学校職員人事評価制度とする。

《解説》

①月例給578円（0.15%）を引き上げる。給料表は小・中学校教員の初任給（2-33）で2,800円、その他の職員（再任用者も対象）では2,600円から1,100円程度改定される。

②ボーナスは0.05月分引き上げ、4.10月とする。（勤務実績給与の推進から勤勉手当に）

⇒ 月例給・ボーナスは2年連続の引き上げ。しかし、4月からの「総合的見直し」による現給保障対象者は、月例給の改善はない。

⇒ 差額（プラス改定時の不足金）支給は、国家公務員の給与改定が遅れていることから、「国より先にするな」の総務省指示を真に受けた北海道は、2月議会後、来年3月を予定。

宮城県や札幌市は、地方自治体の自主的判断により、国を待たず早期に支給する方針。

1月の交渉では、「新たな学校職員人事評価制度」が最大焦点となります。

全国女性教職員学習交流会に参加して

全釧路教組 佐藤 京子

10月10日、11日、長野市で開かれた全国女性教職員学習交流会に同じ全釧路教組の山口さんと共に参加させて頂きました。

感動のオープニング

全体会は長野市若里市民文化ホールで行われ、オープニングは小学生から高校生のメンバーで構成されている信州上田真田陣太鼓保存会 真田太郎隊のみなさんによる和太鼓が披露されました。会場を沸かす力強いパチさばきと気合いの入った掛け声に参加者一同感動の拍手を惜しみなく送りました。

その後、朗読劇や合唱があり、「女たちのマツシロ2015」は構成にも感動しましたが、終戦間近に朝鮮人達によって掘られた松代大本営の地下壕で起きた悲惨な話が語られました。

全教女性部長「学校は希望である！」

挨拶の中で印象に残ったのは竹中全教女性部長のことばでした。14歳で妊娠したお母さんに向けた言葉がまさに人間教師でした。そのお母さんに、「その子を生まないことも、施設にやることも選択できたのに自分で命を育てる道を選んだお母さんは偉い」と話したそうです。そして、そのお子さんを今担任しているのですが、「学校は希望である」ということを物静かに話されました。

今、私は新任教師の指導をしています。その教師達の顔が頭をよぎりました。果たして、子どもたちは学級で生きいきさせてもらっているのだろうか。子どもたちの人格や人権は大事にされているのだろうか。この言葉を4人の新任教師に是非とも伝えてやろう。こんなに明確に教師の道を照らす言葉はないと思いました。

(続きは女性部ニュースで)

全国教職員学習交流集会在 青森に参加して

11月21日～22日、青森県浅虫温泉にて標記集会在開催されました。道教組からは榎木書記長をはじめ、檜山教組から茶森副委員長と安里書記次長、宗谷教組から山本書記次長と太田さん、全釧路教組から赤平さんが、そして同時開催された全教書記連絡会ブロック会議には、道教組の相田書記と檜山教組の長谷川書記が参加しました。

開会集会は、参加者を歓迎する津軽三味線の演奏で始まりました。その後の記念講演では、政治学者白井聡(京都精華大学人文学部専任講師)さんが『戦後』の終わりを迎えて」と題し、日本の対米従属姿勢がいつからどのように続いているのかを史実を元に分析し、今の安倍政権に見るように「敗戦の否定=永年敗戦」のロジックが戦後脈々と流れていることがわかりやすく説明されました。

2日間にわたる分科会と講座では、教職員の生活と権利や多忙化、教育条件改善、民主的な学校・教育課程づくり、職場活動と組織拡大・強化など、教育分野のテーマの他に、憲法・平和問題に関するものもあり、参加者は興味関心に基づき参加しました。

夜の夕食交流会では、各県ブロックごとの紹介があり、特色豊かなアピールで大変盛り上がりしました。全体交流のあとも5つの交流会があり、「青森の文化に触れる」分科会では、地元の横笛奏者の演奏を聴きながら、地酒と漬物を堪能しました。

この集会は、主催が教組共闘といって、全教組組織だけでなく日教組組織も参加しています。「日本の教職員組合」が一堂に会する貴重な機会なのです。

この集会は、主催が教組共闘といって、全教組組織だけでなく日教組組織も参加しています。「日本の教職員組合」が一堂に会する貴重な機会なのです。



ステージに上った北海道・東北ブロックの仲間

2015全道合研開催される

全道各地から2日間でのべ1349名参加

戦争法案が強行され、「2015 合同教育研究全道集会」が11月7・8日、札幌学院大学を会場に開催され、のべ1349名が参加しました。道教組関係者も100名以上が5つのテーマ討論、24の分科会、教育の夕べに参加し、学び合い、交流を深めました。

いくつかの課題をかかえつつ、全道合研の更なる内容改善に向け、今後も検討を重ねていくこととなります。

テーマ討論で今日的課題を学び合い



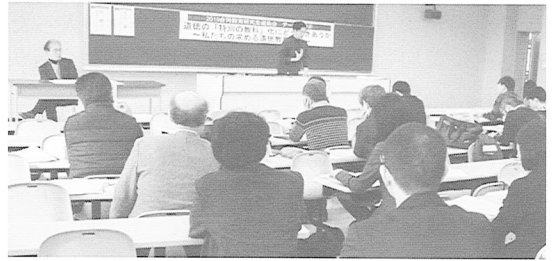
1日目の午前、「戦後70年、憲法と平和を考える」「豊かな心を育む道德教育の創造」など5つのテーマ討論が行われ、今日的なテーマで大変有意義な学び合いができました。

「戦後70年、憲法と平和を考える」のテーマ討論では、神保弁護士から「若手弁護士はインターネットで戦争法案について発信を重視。憲法は過去の失敗（歴史）があって今の憲法がある。子どもたちに過去の失敗（歴史）をしっかりと教えて下さい」とのコメントがありました。保護者からは、「高校時代にもっと本質に迫る歴史を教えてほしかった」と発言がありました。

「豊かな心を育む道德教育の創造」では、テーマ討論とはいうものの、参加された方々の発言の場をしっかりとつくりたいということで、内藤修司さ

んの問題提起、谷光さんの補充的な提起をもとに、4つのグループに分かれて話し合いをしました。

谷さんは「学力・体力向上をスローガンに、〇〇学校スタンダードとかと、ゼロ・トレランス的生徒指導で、傷つきの場としての学校が広がっている。子ども・学校の現実から道德の教科化について語り合いましょう」と呼びかけました。



◆教育の夕べ

記念講演 池澤 夏樹

「原発、沖縄基地、憲法、教育～日本の将来、北海道の未来」で語る

1日目の最後、「教育の夕べ」の記念講演は芥川賞作家にして北海道文学館館長の池澤夏樹さん。

「池澤夏樹＝個人編集」と銘打った世界文学全集（2011年3月）に続いて、昨年11月から「日本文学全集」（全30巻）の刊行を開始した池澤さんが、出版の苦勞と重ね、古事記にはじまる日本文学全集編纂を通じて見えてくる「日本（人）の歴史」「日本のいま」「これから」を縦横に語りました。

国の形が崩れてきている

「色恋沙汰を好み、全体としては非常に優しく、穏やかな性格が古事記らしい見て取れる日本人」「がしかし、こと沖縄のこと、それに対する今の

権力中枢の人々のやりようを見ていると、『国の形が崩れてきている』そう思わずにはいられない。

「私も10年ほど過ごした沖縄の人々のなかにあるゆるい感じや本土とは質の違う文化は、今や紛れもなく、多様な日本の文化の一部をなしているが、それも政権中枢の人々の目には入っていない」「経済しか考えないからか、トヨタも日産もないからか?」。

「その人たちは人文系大学も要らないという」「立憲主義も彼らには分からない」「権力者を縛るのが憲法などとはつゆほども考えず、憲法に基づいて法律を作るのではなく、自分たちのつくりたい法律にあわせて憲法の解釈を変えるという」「人類が、その歴史を通じて打ち立て、確立してきた立憲主義の思想、原理を認めようとしないう人々」。

ついに「日本の憲法は国民の権利ばかり言って、義務がない」などと改憲案までつくり、しかしその「改憲」が難しいとなると、なんと「解釈」で変えようという。さらには憲法学者のことごとくに「それはダメ」と言われても「粛々とやる」という政権をきびしく批判します。



知識人としての義務

難民の問題、イラク戦争時の高遠菜穂子さんらの「人質」事件、いずれも権力者がメディアを通じて世論を操作した。そして今は知識人もコントロールされようとしている。

何か言えば、「少し、ものを知っているかと思ってデカイ顔するな」という非難が飛んでくる。しかし、「ものを知っているもの」がものを言わないでどうする。

フランスでも何年か暮らしたが、デモが頻繁な国。何かあるとデモになる。高校生も公務員もデモをする。多少不便ではあるけれど、それがフランス社会にとっては必要なもの。特に国家公務員

は「身分が保障されているのだから、権力の行いに『ちゃんと批判を行う』ことが義務である」と人々は言う。この国の知識人も「知識人としての義務」を考えるべき。

絶望と希望と

「3・11」後、しばらくは東北にとどまり「何でこんなことになったんだ!」という憤りと絶望感、「情けない」思いに打ちのめされていたという池澤さん。

「しかし、考えてみたら日本という国は昔から、何度もこんな目にあってきた国」「プレート上の『境目』で成形された日本列島は、地震や津波被害からは逃れられないところ」「その被害のたびに人々は『泣いて、あきらめて、もう一度造り始める』そういうことをくり返してきた不運な国とも言える」「その一方ではしかし、その起源の故に南北に長い列島となり、亜熱帯から温帯、亜寒帯まで分布し、豊かな作物にも恵まれ、温泉もあるとも考えられる」

戦後の沖縄を除くと他国による荒い支配を受けたことがない世界でも希有な国という歴史を含めて、「日本という国の歴史と国土が負わされた良いところ、悪いところ」を見て、「これから」を考えて行きたいものとなりました。

合研の感想より

- ・現在教職をめざす身として、教員の現状を知る大変いい機会となった。自分も職業として考えるならば、労働条件についてきちんと考えなくてはならない。(教育条件分科会:学生)
- ・「保健室で関わる子どもたちパート2」に参加し、担任の先生とどうかわっていかいいつも悩んでいたのも、とても勉強になりました。
- ・小学校の先生のお話を伺い、数学の苦手な高校生がどの段階でつまづいているのかを改めて知ることができました。

日高連絡会主催 「道徳フォーラム in 日高」 に20人が参加

11月3日の文化の日、新ひだか町静内で行われ、日高連絡会の方々の他に、「道徳の教科化」に不安を持ち「知りたい、学びたい」という保護者や住民の方々も参加され、かつて日高管内の学校に勤務していた方も札幌・江別などからかけつけてくれました。問題提起を受けた後、時間をとった話し合いが行われました。

「職場の中に『最近の若い先生は子どもを殴ることもできない』と平然という先生がいる。朝、校門前で子どもをよく殴る人が数人いるといわれている」「全国一律の『道徳教育』ではない、アイヌ民族の道徳を学ぶとか考えるとか、マイノリティの道徳を学ぶ場が必要なのではないか」「地元の企業家は『正社員で雇おうとしているが、来てくれない、営農が成立しているのに後継者がいない』と言う。村を育てる教育・道徳が必要な

では」

「えりもは、大人同士が助け助けられる関係。どこの子どももえりもの町の子と励まされ、子どももえりもの町が好き」「権利には義務がつきものと言うが、基本的人権をミーニズムと意図的にごっちゃにしているのではないか」「日高町の『早寝早起き朝ごはん条例』に向けた動きは、どんな事情があろうとも早起きさせない保護者は許さないと、ゼロ・トレランスと同じ事なのではないか」など、それぞれが持つ問題意識を交流しました。

連絡会代表の國保さんは、「中身が充実していて、参加者もそれぞれの考えを発言することができ、時間が足りないくらいで、もっと話したい感じでした。連絡会で反省会をしました。いい学習会になったとみんな大満足でした」と言っています。

11月14日、苫小牧で学習会 「みんなで考えよう 道徳教育」 開催

全教胆振主催の「みんなで考えよう 道徳教育」と題した教育学習会が苫小牧市で行われ、30余人が参加しました。

日高での学習会と同様、道子どもセンターの谷さん・柳さんが話し合いの水先案内をしました。谷さんが、「子どもが仲間とともにのびのびと生活し、学ぶことのできる学校を取りもどすために…道徳の教科化とどう向き合うか…」をテーマに、「『道徳』だけを考えていてはダメ。子ども、そして私たちは、今、どんな世界で生活しているのかをしっかりとつかみ、どんな教育が求められているのか、その中で『道徳』を考えることが大切なのでは」と問題提起しました。

次に柳さんが、「授業に安心して語り合える時間をつくり、自分と違う考えを知ることの快感をもてること、少数派の子どもも持論を披瀝できること、子ども同士がお互いの関係を大切にしながら道徳教育が求められているのではないかと続けました。

その後、3つのグループに分かれ話し合い。「中学校の全学年の担任が1年単位になって来た。子

どもも先生も保護者も不安の中で過ごしている」

「『私たちの道徳』をあまり吟味しないで使っている。忙しくて、消化できず、これじゃダメだって分かっているんだけど」「校長さんが、『道徳は、あたりまえのことをあたりまえにできるようにすることだ』と言うけど、なんかしっくり来ないんだよね」などの教師の現状などが語られました。

集会の最後、谷さんが「学校を安心して語り合える空間に、授業を安心して間違えられる場に作りかえることと、道徳の教科化に向き合うことを関連させて、同僚との協働を一步一步紡いでいきませんか」とまとめました。



「教育全国署名」北海道署名集約集会(12・9)迫る

教育キャラバンで、白老町、赤平市、砂川市、滝川市で教育長との懇談がすすむ

11月18日、全胆振教組の白鳥書記長と道教組の楢木書記長は、白老町の古俣教育長と高尾学校教育課長と約1時間にわたり懇談しました。

教育長は、「財政難の中、自分たちの給与をカットしても子どもたちの教育予算を守っている」と話されました。

11月19日は、赤平市、砂川市、滝川市の教育長と川村委員長、楢木書記長、高教組関原書記次長が懇談を行いました。

その中で、「道教委は数合わせの統廃合を行ってきたが、少人数教育やある程度の規模を維持した教育の両方の施策が求められる」「滝川市では小学校3年生まで35人学級を行っており、市長は6年生までそれを拡大したいと公言している」など、財政難の中、地方の教育長は頑張っていることが分かりました。

重ねてお願いします。

組合員一人30筆をめざしましょう。12月7日までに最大限集めて送付して下さい。

日本PTA全国協議会が教職員の合理化計画反対の「緊急要望書」を決議

日本PTA全国協議会は10月29日、財務省による教職員定数の削減方針に対し、反対する緊急要望書を決議しました。教職員定数を削減すると、少人数教育などきめ細かな取組みができなくなり、子どもたちの教育環境が悪化することは明らかだとし、教職員数増などを求めています。

みなさん、教育全国署名の追い上げをお願いします！！

◎国に対し、35人以下学級の前進、OECD諸国並みの教育予算増、障害児学校「設置基準」を求め、教育全国署名のとりくみを

12月9日、「教育全国署名北海道集約集会」を開催します

- ◆北海道高校センター 4階会議室
- ◆14時～16時
- ◎全道各地のとりくみを交流します

編集後記

近年の賃金確定交渉では、今回ほどあっさりとは終わってしまったことはなかったように思います。それはなぜか。賃金課題のみに絞られたことと、11月13日に開かれた道議会決算特別委員会で高橋知事が「独自削減の終了」を発表してしまったからです。組合との交渉軽視と言わざるを得ません。

正直、交渉の場で「独自削減終了」の回答がほしかった。17年間もその時々で約束を反故にされ、痛みを押しつけられてきた独自削減。終了を宣言するなら、まずは職員へ「長年痛みを押しつけて申し訳なかった」と謝罪するのが道理だろうと思います。それなしに「長期間ご協力いただいたことにお礼申し上げる」では、どこかお殿様の挨拶のようで私は納得できませんでした。

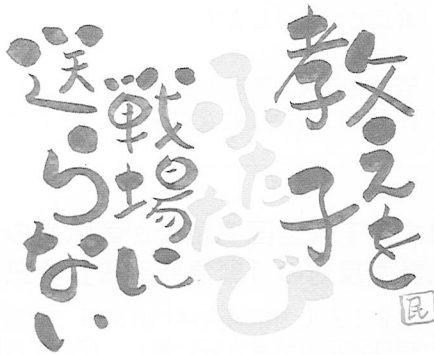
17年間の職員1人あたりの損失は400～500万円ともいわれます。とくにこの3年間では退職金も

約420万円削減されました。さらに年金は削られるだけでなく、支給開始年齢が繰り延べられ、来年度からは満62歳にならないと支給されません。退職から年金支給までの間、再任用を希望する人が増えていくことは必至です。民間・公務を見渡しても、とくに教職員の世界は「教職員定数」が壁になり、希望者の再任用率は低迷しています。定年延長か教職員定数外での再任用しか、解決の道はありません。

私たちの勤務条件は子どもたちの教育条件に直結します。そのことを組合の主張に終わらせるのではなく、道理と教育条理をもって道教委と対話し、彼らにそのことを理解してもらわないと、私たちは子どもたちに寄り添った教育活動に打ち込むことができないのではないのでしょうか。とりあえず、独自削減は終了です(楢木)

わたしのとっておき

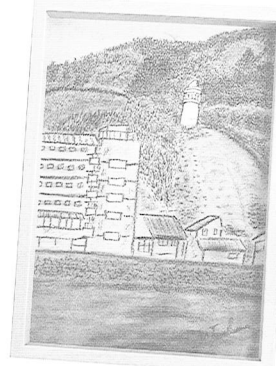
“とっておき”の写真・絵・短歌・川柳など紙面で紹介できる作品募集。頁下メールアドレスへご連絡を。



「伝筆(つてふで)」

夏に伝筆という筆文字を学びました。組合の旗に書いてあるこの言葉。この夏、「先生である自分」として改めて強く意識しました。

【山本 民(稚内南小学校)】



「写生大会」

4年前、初めて自分の絵を褒めてくれる方に出会いました。そして今年、校内の写生大会教員の部というささやかな中ではありますが、生まれて初めて絵で大賞に!40歳になっても自分の知らない可能性はあるのですね!すてきな出逢いに感謝!

【古川 正史(礼文町香深中学校)】

全教自動車保険

あなたをマモルン見積りキャンペーン実施中
年4回の抽選で全国で計2000名にプレゼント



小納谷部長
川上企画



見積り依頼で、ハーゲンダッツミニカップギフト券をプレゼントします。しかも、今ならご紹介者にもギフト券をプレゼントします。

提携 東京海上日動火災
保険株式会社

全教自動車保険加入にあたっての5つの特長

- ①無事故割引を他の保険会社や一部の共済から引き継げます
- ②保険料は給料引去または口座振替
- ③ご家族の車でも、何台でも加入OK
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

手続き

カンタン

有限会社 川上企画 (道教組指定代理店)

札幌市中央区南大通西12丁目4-78 ウェスト12 1階
フリーダイヤル 0120-222-789 FAX 011-218-2472

道教組

2015年12月1日発行

発行 全北海道教職員組合 発行者 川村安浩 〒060-0909札幌市東区北9条東1丁目 北海道労働センター 3階

TEL(011)742-0101 FAX(011)742-1001 メールアドレス dokyoso@scagreen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.dokyoso.net>